京セラ株式会社 2022年3月期 第3四半期 決算説明会
(2022年1月31日開催)

代表取締役社長　谷本 秀夫　スピーチ

＜1.　(中表紙) 2022年3月期第3四半期 決算概要＞

＜2.　2022年3月期第3四半期累計 決算概要（1）＞

当第3四半期累計期間の売上高は、5Gや半導体関連市場等の主要市場での需要が堅調に推移したことから、前年同期に比べ23.2%増加の1兆3,557億円となり、第3四半期累計として過去最高を更新しました。利益については、増収効果及び生産性改善により大幅に増加しました。営業利益は約2.8倍の1,185億円、税引前利益は87%増加の1,631億円となり、税引前利益率は 2 桁へ向上しました。親会社の所有者に帰属する四半期利益につきましても、87.4%増加の1,198億円となりました。

平均為替レートは、対米ドルは前年同期に比べ5円円安の111円、対ユーロは9円円安の131円となり、これにより売上高は約470億円、税引前利益は約150億円押し上げられました。

＜3.　2022年3月期第3四半期累計 決算概要（2）＞

設備投資額や有形固定資産減価償却費、研究開発費については、高需要製品の増産や新製品開発に積極的に取り組んだことから、それぞれ増加しました。

＜4.　2022年3月期第3四半期累計 事業セグメント別売上高＞

事業セグメント別の売上高は、全てのセグメントで20%以上の増収となりました。

＜5.　2022年3月期第3四半期累計 事業セグメント別利益＞

事業セグメント別の利益は、増収を主因に全セグメントで大幅に増加し、利益率も改善しました。「コアコンポーネント」及び「電子部品」については2桁の利益率となりました。
続いて、各事業セグメントの業績についてご説明します。

＜6.　2022年3月期第3四半期累計 事業セグメント別業績（1）コアコンポーネント＞

上段のグラフは、コロナ禍前の2020年3月期第3四半期累計期間から、当第3四半期累計期間迄の売上高及び利益の推移を示しています。
下段の増減要因は、当第3四半期累計期間と前第3四半期累計期間を比較して記載しています。

「コアコンポーネント」は、半導体製造装置向けファインセラミック部品の需要が増加したことに加え、5G や自動車関連市場向けにセラミックパッケージ及び有機基板の需要が増加したことにより増収となりました。
利益は、増収及び高付加価値製品の需要増により前年同期比約 2.3 倍となり、利益率は約 12%へ向上しました。

＜7.　2022 年 3 月期第 3 四半期累計 事業セグメント別業績（２）電子部品＞
「電子部品」は、自動車関連市場や産業市場等の回復に加え、5G 及び半導体関連市場での需要増により、小型の高容量コンデンサや水晶部品等の売上が増加しました。
利益は、増収及び高付加価値製品の需要増により約 2.5 倍となり、利益率は 16%へ向上しました。

＜8.　2022 年 3 月期第 3 四半期累計 事業セグメント別業績（３）ソリューション＞
「ソリューション」は、機械工具事業において、切削工具及び空圧・電動工具の売上が増加したことに加え、ドキュメントソリューション事業において、米国を中心に機器及び消耗品の販売が回復したことにより増収となりました。
利益は、増収に加え、前年同期に計上したスマートエナジー事業における減損損失約 115 億円の影響が無くなったことから、約 3.7 倍と大幅に増加しました。
以上が第 3 四半期累計の決算概要です。続いて、通期業績予想についてご説明します。

＜9.　（中表紙）2022 年 3 月期通期 業績予想＞
＜10.　2022 年 3 月期通期 業績予想（１）＞
当第 4 四半期は、引き続き半導体関連市場を中心に部品の需要が見込まれるものの、新型コロナウイルス感染症の再拡大など、依然として不透明な事業環境にあることから、2022 年 3 月期通期業績予想につきましては、2021 年 11 月の公表数値から変更はありません。

＜11.　2022 年 3 月期通期 業績予想（２）＞
設備投資額、有形固定資産減価償却費、研究開発費につきましても変更はありません。

＜12.　2022 年 3 月期通期 事業セグメント別 売上高予想＞
＜13.　2022 年 3 月期通期 事業セグメント別 利益予想＞
事業セグメント別業績予想についても変更はありません。

＜14. 今後の事業環境見通し及び主な取り組み＞
足元は不透明な環境にあるものの、5G の本格始動や一層のデジタル化の進展に伴い、引き続き半導体の需要増等が進むものと予想されます。

当社は、この事業機会を着実に捉えるため、2023 年 3 月期も国内外の生産拠点において、半導体製造装置用ファインセラミック部品などの高付加価値製品の増産のための設備投資を積極的に行ってまいります。

＜15.　業績目標＞

当社は、今期業績予想の達成を図るとともに、引き続き積極的な投資と事業体制の強化に取り組み、売上高 3 兆円を目指してまいります。

以上

将来事象に関する注意事項

当資料には、将来の事象についての 2022 年 3 月期第 3 四半期決算説明会開催日（2022 年 1 月 31 日開催）時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。詳細は、当社ホームページに掲載の「将来の見通しに関する記述等について」をご参照ください（https://www.kyocera.co.jp/ir/disclaimer.html）。